

第32回（令和7年度第1回）岩手県スポーツ推進審議会議事録

日 時：令和7年9月8日（月） 10：00～12：00

会 場：県庁12階 特別会議室

出席者

○ スポーツ推進審議会委員

内城 寛子 委員 小山田 浩之 委員 柿崎 和弘 委員 木下 淳 委員
熊谷 和幸 委員 今野 房子 委員 谷藤 節雄 委員 津志田 静徳 委員
松村 泉樹 委員

○ 岩手県文化スポーツ部

菊池文化スポーツ部長

・ スポーツ振興課

田内総括課長

三ヶ田特命参事

阿部生涯スポーツ担当課長

千葉上席スポーツ振興専門員兼競技スポーツ担当課長

渡辺特命課長

及川特命課長

○ 岩手県教育委員会事務局

・ 保健体育課

中村首席指導主事兼総括課長

粒來主幹兼保健体育担当課長

○ 県南広域振興局経営企画部

海和主事

○ 沿岸広域振興局経営企画部

児玉主査

○ 県北広域振興局経営企画部

江莉主任

1 開会

(田内スポーツ振興課総括課長)

ただ今から、第32回岩手県スポーツ推進審議会を開催いたします。

暫時進行を務めさせていただきますスポーツ振興課総括課長の田内でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者ですが、委員13名中、会場に8名、リモートで1名の御出席をいただいております、岩手県スポーツ推進審議会条例第4条第2項の規定により、委員の半数以上が出席していることから、本審議会が成立いたしますことを御報告申し上げます。

なお、本日、阿部里美委員、上野光久委員、高林江美委員及び小原奈帆子委員は御都合により御欠席の旨御連絡をいただいております。

また先に御案内申し上げましたとおり、審議会等の会議の公開に関する指針により、本日の会議は全て公開いたしますので、予め御了承くださいますようお願いいたします。

2 部長あいさつ

(田内スポーツ振興課総括課長)

それでは開会に当たり、菊池文化スポーツ部長から挨拶を申し上げます。

(菊池文化スポーツ部長)

文化スポーツ部長の菊池でございます。

本日は、お忙しいところお集まりいただき、また、リモートでの御参加をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から本県のスポーツ振興に御協力、御尽力いただいております、重ねて御礼を申し上げます。

スポーツ界での本県出身選手の活躍が県民に明るい話題を提供しているところであり、メジャーリーグでの大谷選手の活躍は申し上げるまでもございませんが、そのほかにも、今年の全国高総体では、男子800メートルで盛岡第四高校の菊池晴太選手が本県高校新記録で優勝、また、男子ホッケーで沼宮内高校が準優勝したほか、先日開催されたサマースキージャンプ山形蔵王大会において、小林陵侑選手が大会4連覇を果たすなど、本県出身選手がすばらしい活躍を見せております。

今月からは、滋賀県を主会場として、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会が、東京では世界陸上、デフリンピック等、大きなスポーツ大会が開催されますので、本県出身選手が大いに躍動し、スポーツの力が県民にさらなる活力を与えてくれることを、大いに期待して応援したいと思います。

県としても、県民一人ひとりがスポーツに対する関心をさらに高め、誰もが日常的にスポーツに親しむことができるよう、スポーツの振興により一層取り組んでまいります。

本日は、「第2期岩手県スポーツ推進計画」の取組状況をお諮りさせていただきます。

また、報告で説明しますが、2027年2月に八幡平市で開催される第81回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会について、大会愛称及びスローガンが決定いたしました。大会の開催に向けて、引き続き関係機関と連携しながら準備を進めてまいります。

本日、委員の皆様には、忌憚のない御意見や御助言をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、誠に恐縮ですが、別用務がございまして、ここで退席させていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（田内スポーツ振興課総括課長）

それでは、菊池部長は用務のため、ここで退席とさせていただきます。

3 議題

（１）議事

（田内スポーツ振興課総括課長）

続きまして、議題に入りますが、条例第３条第２項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、以降の進行は谷藤会長にお願いいたします。

（谷藤会長）

岩手県スポーツ協会の谷藤と申します。

議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、会議の次第によりまして進めてまいります。

それでは早速ですが、３の（１）「議事」に入ります。

「第２期岩手県スポーツ振興計画」の取組状況について、事務局から説明をお願いいたします。

（阿部生涯スポーツ担当課長）

スポーツ振興課の阿部でございます。失礼ですが、着座にて説明させていただきます。

議事の「第２期岩手県スポーツ推進計画の取組状況」について、資料No.１により計画の施策体系に沿って主な事業を説明いたします。

資料No.１により、４つの施策の柱の順に説明いたします。それでは、資料１の２ページをお開き願います。

１つ目の政策の柱である「１ ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」です。

なお、私からは、この中のうち、スポーツ振興課の生涯スポーツ担当が所管している業務について説明させていただきます。

はじめに、（１）スポーツ参画人口の拡大について、御説明申し上げます。

「１ 生涯スポーツ推進事業」については、県民のスポーツ機会の充実を図るため、県スポーツ振興事業団に委託し、スポーツ教室や講習会の開催、企業への健康づくりの指導者派遣、スポーツイベントの実施などにより、各年代に応じた運動機会の確保に取り組んでいるものです。

「２ 生涯スポーツ推進事業（地域スポーツ推進事業）」については、総合型地域スポーツクラブの育成支援を通じて、身近にスポーツを楽しむ機会の充実を図ろうとするもので、主な取組内容としては、クラブアドバイザーによる巡回指導や、指導者を対象とした講習会の開催のほか、総合型地域スポーツクラブの運営及び指導者の資格取得支援を行ったものです。

次に、6ページをお開き願います。「(2) 子どものスポーツ機会の充実」について、御説明申し上げます。「8 地域クラブ活動への移行に向けた体制整備」についてです。

令和6年度に策定した、地域クラブ活動の整備等に向けた県の考え方を示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針」に沿って、「岩手県における地域クラブ活動の在り方に関する協議会」を昨年度設置し、7月に本年度第1回目を開催し、学校、保護者などの関係者と情報共有や意見交換を行ったところです。

加えて、児童生徒も対象とした、岩手県の中学生にとって望ましい環境について様々な立場から意見を交わすワークショップや市町村等を対象とした相談会、先進事例の紹介等を行う事例発表会を開催することとしています。

「9 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業」についてですが、地域クラブ活動を推進するため、国庫を活用した実証事業を今年度は7市町で実施しています。

また、地域移行を着実に推進するため市町村へ助言や指導等を行う「アドバイザー」を、令和7年度から新たに設置したところです。先週までに県内33全ての市町村を回り、現状及び課題について把握したところです。

続きまして、7ページを御覧ください。「(3) 成人のスポーツ機会の充実」ですが、8ページをお開き願います。「3 高齢者スポーツ活動振興事業」については、高齢者の生きがいと健康づくりを推進するため、「ねんりんピック2025岐阜大会」への選手派遣への補助などを実施します。

続きまして、9ページへお移り願います。「(4) スポーツに関わる多様な人材の確保・育成」ですが、「4 いわてスポーツプラットフォーム推進事業」については、魅力あるスポーツのまちづくりを推進するため、官民連携組織によるスポーツの取組を支援することを目的として、令和4年度に「いわてスポーツプラットフォーム」を立ち上げました。

プラットフォームは、様々な団体が集まり議論を展開することでこれまで及ばなかった連携やアイデアを生み出そうとする体制であり、その取組こそが、スポーツ振興・活性化につながることから、令和7年度は、昨年度までの取組を踏まえ、新しい展開にむけた準備期間として、様々な検討を行うこととしています。

10ページにお進み願います。「(5) スポーツを楽しむ環境の整備」ですが、「3 いわて盛岡・ボールパーク整備・管理運営事業」については、県と盛岡市において共同整備を行いました「きたぎんボールパーク」に係る事業となっております。

「きたぎんボールパーク」は、令和5年4月1日に供用開始されました。今年度は5月20日にはプロ野球公式戦の「楽天ー西武」戦が開催されました。

(中村保健体育課総括課長)

岩手県教育委員会事務局保健体育課の中村でございます。続けて、当課の担当分について要点を絞って説明いたします。着座にて失礼いたします。

3ページを御覧ください。「(2) 子どものスポーツ機会の充実」「①学校体育の充実」についてです。

「1 60 プラスプロジェクト推進事業」については、令和4年度から進めている当課の主要事業の一つです。

各学校において、運動習慣、食習慣、生活習慣を相互に関連付けた、一体的な取り組みを推進することにより、児童生徒のより良い運動習慣、望ましい食習慣、規則正しい生活習慣を形成し、健康の保持増進を図るとともに、児童生徒一人一人が生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができる力を培うというものです。今年度は新たにデジタル版チャレンジカード導入に向け、ただいま準備を進めているところです。

「2 地区別体力向上担当者研修会」については、資料のとおりとなっております。

運動やスポーツが嫌い・苦手な児童生徒が、授業が楽しい・できる喜びなどの経験から、“運動・スポーツが好き”を増やして、生涯を通じて運動やスポーツに親しみ、健康的な生活を送ることができるようにしたいと考えているものです。そのために、授業づくりの研修を充実させることが必要と考えているところです。

続きまして、4 ページを御覧ください。

こちらはスポーツ庁の委託事業、「令和の日本型学校体育構築支援事業」です。武道の充実、課題のある領域への対応。これは小学校中学校保健領域です。他には、今日的課題、配慮を要する児童生徒と共に学ぶことなどの事業となっております。

続きまして5 ページを御覧ください。「② 運動部活動の充実」についてです。

「1 適切な部活動体制の推進」の2つ目の丸「中学生スポーツ・文化芸術活動指導者研修会」について、今年度は対象者をこれまでの中学校の指導者に、地域指導者を加えたところです。

続きまして、「8 地域クラブ活動への移行に向けた体制整備」についてですが、教育委員会としましては、今年度、受け皿となるクラブ活動へ参加する立場である学校、生徒、保護者、教職員への理解促進と周知について、重点的に取り組んでいるところです。

昨年度に引き続き、生徒、保護者、教員、地域指導者を対象としたワークショップを開催します。参加者の感想、要望、思いなどを把握したいという内容です。参考までに、今年度は9月28日（日）、講演の講師は益子直美さんを予定しているところでございます。

資料にはありませんが、新たな取り組みとして、実態把握に向けて生徒保護者教員を対象に意識調査を実施する予定となっております。

（千葉競技スポーツ担当課長）

スポーツ振興課競技スポーツ担当の千葉と申します。着座にて失礼いたします。私の方からは、競技スポーツに関わる取組について説明させていただきます。2 ページを御覧ください。

「(1) スポーツ参画人口の拡大」の「4 スポーツ医・科学サポート事業」の健康づくり支援事業としまして、広く県民、高齢者までを対象とし、これまで培った医科学に関する知見を生かした健康づくりを県内各地において実施しているところです。合わせまして、「レッツ！ぺっこトレ！！」、「ぺっこ学ぶ場（べ）」の配信、掲載を継続して実施しているところです。

続きまして、10 ページを御覧ください。「(5) スポーツを楽しむ環境の整備」の4 番目です。

「スポーツ大会映像配信事業」ということで、ライブ配信を行うための機材を整備し、競技団体にこれらの貸し出しを行いまして、スポーツ大会等のライブ配信を支援しているものです。今年度は3 競技団体に貸出を予定しており、陸上競技の一周継走、ボクシングの東北大会の配信は実施済みとなっております。

(谷藤会長)

ただ今の2ページから10ページまで、「ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」ということで説明をいただきましたが、少し長いので、3つに区切って質問をお受けしたいと思います。

まずは、2ページの「(1) スポーツ参画人口の拡大」について、質問がありましたらお願いします。

特にありませんか。無ければ、次の「(2) 子どものスポーツ機会の充実」、3ページから6ページの部分について、質問がありましたらお願いします。

(内城委員)

富士大学の内城です。

私からは1点、「②運動部活動の充実」について、質問をしたいと思います。

こちらは、令和8年度までが次の切り替えの段階、令和13年度には少しずつまた違う展開に向かっていくということで、段階を追って地域展開が広がっていった、最終的には平日の地域展開という形を目指していくものと理解していますが、「②運動部活動の充実」という項目をそのまま残してしまうと、「学校の活動として部活動の充実を目指していくもの」という可能性もあるかなと思ひまして、今年度の話ではないですし、今今ではないかもしれませんが、少しずつ、こちらの項目名称を変更する必要があるのかなと思っております。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

第2期岩手県スポーツ推進計画の柱立て上、このような表記になっております。

委員がおっしゃったとおり、改革実行期間としまして令和8年度から10年度まで、中間評価をいたしまして、後期が11年度から13年度までの期間で地域改革期間としておりますので、第3期推進計画の推進に当たっては配慮したいと思います。

(内城委員)

第3期の見直しの時期はいつでしょうか。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

令和11年度からです。

(内城委員)

承知しました。

(谷藤会長)

他にありましたらお願いいたします。それでは、私の方からいいでしょうか。

4ページに「5 幼児児童の運動遊び研修会」とあるのですが、これは当然のこととして幼稚園は対象だと思うのですが、保育園の指導者も対象にされているのでしょうか。

(中村保健体育課総括課長)

保育園の指導者も対象となっております。受講は希望です。

(谷藤会長)

岩手県は肥満が多く、幼児期から小学校低学年までの体重増加が影響しているのではないかとされており、非常に重要な時期だと考えていますので、多くの参加があれば良いと思います。

5ページの「1 適切な部活動体制の推進」の丸一つ目に「自主的・自発的な活動の周知と徹底」とありますが、これは何年も前にスタートしていて、もう100%完結しているという理解でいいですか。自主的・自発的な活動となっていないところがあるため、このような表現をしているということでしょうか。

(中村保健体育課総括課長)

県内中学校の97%が自主的・自発的な加入となっていますが、まだそうっていないところも一部あります。

(谷藤会長)

市町村の教育委員会の考え方ということでしょうか。

(中村保健体育課総括課長)

市町村については、全ての市町村で自主的・自発的な活動をするとしておりますが、各学校での判断ということです。

(谷藤会長)

分かりました。国からの話だと思うので、早めに100%になればと思います。

このような感じで何でも結構ですので、皆様の方からありましたらお願いいたします。

(内城委員)

最近、私も調べて分かったことだったのですが、令和6年度の出生数について、岩手県内で1桁台のところが6町村から7町村あったと把握しております、

その町村の子どもが10人に満たないということで、運動機会の確保など、運動のあり方が少し心配だなと思っているのですが、そのことに対して、県がどのように把握して対策を立てようとしているのかをお伺いしたいと考えております。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

委員がおっしゃるとおりでございまして、昨年度の出生者数が10人に満たなかった市町村が、6ないしは7市町村あると理解しております。なお、この世代が小学校低学年になる時にどういった運動の機会を設けるかといったところは、第3期スポーツ推進計画において、議論していくことになると思います。

(谷藤会長)

他にありましたらお願いいたします。

(中村保健体育課総括課長)

先程、県内の97%が部活動への参加を自主的・自発的なものとしていると申し上げましたが、正しくは77.6%でした。

(谷藤会長)

あとは強制的に参加しているということですか。

(中村保健体育課総括課長)

細かく申し上げますと、自主的・自発的な活動として認めているが、実態として生徒全員が何かしらの部活動に加入しているという学校が、14.7%ということです。

(谷藤会長)

そのような学校は部活動の加入率が100%であり、形は違うけれど、部活動への加入は自主的・自発的なものとしている学校が100%だということですね。ちなみに高等学校は全て自主的・自発的な加入としているのでしょうか。

(中村保健体育課総括課長)

はい、その通りです。

(谷藤会長)

それでは、他に皆さんの方からありましたらお願いします。

(柿崎委員)

岩手町の柿崎です。1か所教えてください。

デジタル版チャレンジカードの導入について、今準備中ということでしたが、実施はいつ頃を予定されていますか。

(中村保健体育課総括課長)

現在、業者の選定等に入っております。今年度は、チャレンジカードの導入を試験的に行い、来年度から各学校で活用できればと考えています。

(谷藤会長)

よろしいですか。他に皆さんからありましたらお願いします。

それでは先に進ませていただきます。次に、(3)、(4)、(5)、7ページから10ページまでのところで、皆さんから質問等がありましたらお願いいたします。

(熊谷委員)

先程、9ページ「4 いわてスポーツプラットフォーム推進事業」で、令和7年度取組について、何らかの検討に入るという説明をされていたのですが、具体的な内容が分からなかったもので、詳しく教えていただければと思います。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

いわてスポーツプラットフォームについては、令和4年度に立ち上げ、令和6年度まで開催をしていたところですが、これまで3つの重点項目について取り組んできました。来年度以降に向けて、どういったスポーツプラットフォームのあり方がいいのかということを検討していくというところです。

具体的には、プラットフォームの組織の見直しも含めて、検討しているところです。

(谷藤会長)

よろしいでしょうか。他にありましたらお願いいたします。

(小山田委員)

小山田です。

10ページの「3 いわて盛岡ボールパーク整備・管理運営事業」のところですが、私も野球をやっていたので、後輩に今年の夏のプレイの中で、フェンス裏で事故を起こして、大けがをしたということを聞き、関係者からもそのような事故が多いという話を聞きました。

フィールド内での事故ということなので、安全面でもう一度設備の見直しをお願いしたいなと思っています。要望です。

それから、もう実施済みかもしれませんが、スタジアムの給排水の設備も不具合があると聞いていて、施工会社さんの問題だと思うのですが、それも督促をして早く改修を進めていただきたいと思います。

(谷藤会長)

要望・意見ということですが、事務局から回答をお願いします。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

意見として承りました。

(谷藤会長)

私の方から関連して、2番の事業概要のところ、安全性・快適性といった記載がありますが、最近は暑熱対策を進めなければどうにもならない、というふうになってきております。すぐにはいきませんが、冷房設備などは必要になっていると思います。これも要望です。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

御意見として承ります。

(谷藤会長)

他に皆さんの方からありましたらお願いいたします。

それでは、先に進みたいと思います。事務局から続けて説明をお願いいたします。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

資料の11ページをお開き願います。2つ目の政策の柱である「2 共生社会型スポーツの推進」です。

「(1) 障がい者スポーツの推進」について御説明申し上げます。

「1 障がい者スポーツ振興事業」については、岩手県障がい者スポーツ協会への業務委託により、スポーツ教室、指導員養成、スポーツ大会開催、選手育成強化等を行ったものです。

「2 インクルーシブスポーツ推進事業」については、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむため、また、地域での共生社会型スポーツの定着に向け、今年度は、昨年度に引き続き、地域推進体制の構築や指導員養成、ボッチャや卓球バレーを通じた県内各地域での体験教室や交流大会の開催を行ったものです。

以上で、「2 共生社会型スポーツの推進」についての説明を終わります。

(千葉競技スポーツ担当課長)

資料の12ページを御覧ください。「(3) スポーツにおける女性の活躍推進」、「3 スポーツ医・科学サポート事業」におきまして、女性アスリートのサポートを実施しているところです。

今年度は、女性アスリートサポートセミナーを2月8日にアイーナで実施する予定としております。また、スポーツ団体等への講師派遣ということで、こちらは県のスポーツ協会の方で、女性アスリート相談窓口というものを設置しておりまして、そちらに相談が来た場合に、企画サポートをして、女性アスリートをサポートしていくという内容のものです。

(谷藤会長)

資料11ページ、12ページについて、質問がありましたらお願いいたします。

(近藤委員)

大船渡の近藤と言います。よろしくお願いいたします。

まずは、大船渡市の山林火災において、皆様から御支援やお見舞いをいただきまして、ありがとうございました。14年前の大震災以来の大大大災害でしたので、大震災の時に津波から逃れようとして、高台に上がって、そこに家を建てた。その人たちが山林火災でまた再度被害に遭っているっていう方々もたくさんいらっしゃいます。そこで、大船渡市は全体がどんと沈みまして、お祭りもう中止になったという経緯もありますが、今はまた立ち上がろうとして頑張っています。皆様よろしくお願いいたします。題からそれましてすみません。

(谷藤会長)

大丈夫です。本当に大変だったと思います。お見舞い申し上げます。

(近藤委員)

障がい者スポーツ、後はインクルーシブスポーツのところですが、おかげさまでスポーツ協会、障がい者スポーツ協会の方に頑張っていただきまして、県内様々なところで、ボッチャ、卓球バレーの普及をしていただきまして、かなり名前が知れ渡ったというか、ニュースポーツの活動が盛んになって、障がい者だけでなく老若男女、小さい子から大人まで、高齢者まで、様々な人がずっと混ざり合っているというのは、すごく良いことだなと、障がいのあるなしに関わらず、集まってやっているというのは、すごくいい現象だなと思っています。全国的にも知れ渡って、たくさん活動の輪が広がっていますので、国民全体のスポーツとして良いなと思っています。

そうなのですが、障がい者というのは特別に支援というものが必要な場合が多々ありまして、一般の人、小中学生とか、一般のスポーツをする人とか、中には支援という言葉がいっぱい出てくるのですが、障がい者のスポーツに関しては、そういうのが出てきていません。障がい者こそ支援が必要だということが、場面場面にあります。

ところが、誰でも支援ができるというものでもありません。下手に重度の人とかになると、支援の仕方によっては怪我をさせてしまうということがあるので、やはり研修が必要です。

スポーツ指導員、中級指導員や初級指導員など色々やってはいますが、機能していないのではないかと思います。スポーツに関しての指導員という意味かと思いますが、そこにサポートをする人がほしい。例えば、支援してもらいたい人と支援できる人を登録しておいて、マッチングさせて使えればいいと思いますが、そういうことができないでしょうか。

ある大会で視覚障がいの方が支援をしていただいたのですが、研修が行き届いていなかったのかも知れませんが、競技前に怪我をしてしまい、大変残念な結果に終わってしまったということがありました。

そのようなこともありますので、やはり研修が必要なので、そのような取組を加えて欲しい、県で何か考えてほしいと思います。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

ありがとうございます。まず、障がい者スポーツ指導員養成事業について、御説明申し上げます。

初級パラスポーツ指導員養成講習会については、沿岸地区では、陸前高田市で令和8年1月に開催を予定しており、盛岡市でも開催しました。また、中級パラスポーツ指導員養成講習会については、盛岡市で年2回、延べ8日間開催を予定しているところです。

また、パラスポーツ指導員フォローアップ研修事業として、中級指導員養成講習会と合わせて、年1回実施しています。

2つ目のフォローアップできる体制についてですが、障がい者スポーツ振興推進員設置事業として、障がい者スポーツに関係する社会資源や、組織、個人間を幅広くコーディネートし、生涯スポーツ振興を推進するものとして、3名配置していますので、そちらの方で対応を検討していきたいと思っています。

(谷藤会長)

今の後半の部分については、資料には記載されていないものですか。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

はい。資料には記載されていないものです。

(近藤委員)

どちらの方に問い合わせれば分かりますか。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

県障がい者スポーツ協会への委託事業で推進していきまして、資料では11ページの「1 障がい者スポーツ振興事業」の一番下の丸、「障がい者スポーツ振興推進員設置」ということで、障がい者スポーツ協会への委託事業という形で実施しています。

(谷藤会長)

よろしいですか。

(近藤委員)

はい。問い合わせてみます。

(谷藤会長)

他にありましたら、お願いいたします。

無いようですので、次の説明を事務局お願いいたします。

(千葉競技スポーツ担当課長)

続きまして、「3 国際的に活躍する競技スポーツの推進」について、御説明申し上げます。13ページを御覧ください。

まず、「1 オリンピック選手等育成・強化事業のいわてスーパーキッズ発掘・育成事業」についてです。皆さんも御存じかと思いますが、選考された小学5年生から中学3年生を対象に、小学6年生をU12、中学生をU15という形で育成を進めております。

また、発掘プログラムとしまして、小学4年生と小学6年生を対象に体力測定等を行い、次年度に選考する人数を変更していくという取組を実施しています。

なお、今年度ですが、プログラムの中のトップアスリート講話について、内容を拡充して実施することで準備をしています。

続きまして、「2 オリンピック選手等育成・強化事業のトップアスリート活動支援」についてです。こちらは、国際大会で日本代表になった選手などを対象に強化選手として指定し、年間で18万円の補助を行っています。補助人数は30人の見込みですが、7月31日現在で指定選手が30人に達しておりますので、今後、日本代表になる選手が追加になると、見込みを超えるという状況です。

次に、「3 いわて競技力向上支援事業におけるジュニア体験・育成事業」についてです。こちらは、メインターゲットは小学生と一部中学生ですが、これから競技を始める子どもたちへの競技の普及を目指して実施しているものです。今年度は、25競技団体で実施していただいております。

次に、「4 パラリンピック選手等育成・強化事業のいわてパラアスリート発掘・育成事業」です。全体研修として、7月3日にふれあいランドいわてで13名が参加して実施しており、今後、11月9日に2回目を実施する予定です。また、競技別研修ということで、7月から2月にかけて、陸上、卓球、水泳、サッカーの4競技の研修を実施しているところです。

続きまして、14ページを御覧ください。「国内外で活躍するアスリートの育成」、「2 オリンピック選手等育成・強化事業のポテンシャルアスリート活動支援」についてです。こちらは、22歳以下の選手を対象とし、前年度の全国大会で8位入賞以内の実績を上げた選手を指定して実施しております。今年度は25人で確定しております。

次に、「3 いわて競技力向上事業の競技力向上支援事業」についてです。こちらは主に国スポに向けた選手強化ということで、国スポの正式種目、競技である41競技団体と、昨年度からオリンピック競技へ対象を広げてカーリング競技も対象とし、42競技団体で実施しているところです。

次に、「4 パラリンピック選手等育成・強化事業のパラアスリート活動支援事業」についてです。国際的に活躍している選手をA指定、国内で活躍している選手をB指定ということで、今年度は15名を指定して事業を進めているところです。

続きまして、15ページを御覧ください。「(2) 競技力向上を支える人材の育成」、「指導者の資質向上」の「1 スポーツ医・科学サポート事業における指導者研修会」についてです。こちらは、県内の指導者を対象にスポーツ科学の知見を生かした研修を実施しているものです。

次に、「2 いわて指導者育成事業のトップコーチ活動支援事業」についてです。こちらは、県内にいる指導者の中で、NF（国内競技連盟）レベルのコーチや監督、指導者になった方々を指定し、個別に研修を受けていただくという事業です。今年度は12名を指定しまして、その中から1名を対象とし、研修を受講していただくというものです。

次に、「3 いわて指導者育成事業の指導者資格取得支援事業」についてです。こちらは国スポの正式競技の公認資格ということで、国スポではこちらの資格を持っていないと監督にはなれませんので、過去に資格を持っていないために問題になったという事例もありましたが、そのようなことが起きないように、各競技団体の方で必ず指導者の方に資格を取っていただくということで進めているものです。各年で実施、指定していますので、先程、正式競技41競技と申し上げましたが、今年度はその半分の21競技団体で実施しているものです。

続きまして、「アスリートのサポート人材の育成」、「1 スポーツ医・科学サポート事業のトレーナースタッフ派遣事業」についてです。こちらは県内にいる、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーと、岩手県で同時に育成した、いわてアスレティックトレーナーを各競技団体の強化練習、大会遠征等に派遣して、競技団体のサポートを行っているものです。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

15ページの「4 障がい者スポーツ振興事業の障がい者スポーツ指導者育成事業」ですが、先程、「2 共生社会型スポーツの推進」でも御説明しましたが、「4 障がい者スポーツ振興事業」については、障がい者スポーツの振興を図るため、パラスポーツ指導員養成講習会等を行っているものです。

(千葉競技スポーツ担当課長)

続きまして、16ページを御覧ください。「(3) 競技力向上を支える環境の整備」、「スポーツ医・科学、情報等を活用した支援」ということで、「1 スポーツ医・科学サポート事業のアスリート研修会」についてです。こちらは県内のアスリートを対象にスポーツ医・科学のサポートを実施しているものです。

最後に、「競技団体の組織強化」ということで、「いわて競技力向上事業」において、「スポーツ・インテグリティ推進事業」を実施しております。全体の研修会を県スポ協と合同で開催する予定となっております。

また、インテグリティ推進の取組ということで、それぞれの競技団体で講師を呼んで、インテグリティの研修を実施していただくということで、3団体分の事業費を計上し、各競技団体の方に研修をお願いしているところです。

(谷藤会長)

それでは、13ページから16ページのところについて、質問がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、事務局から続けて説明をお願いいたします。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

資料の17ページを御覧ください。4つ目の政策の柱「4 地域を活性化させるスポーツの推進」です。

「(1) 地域の活力につながるスポーツの推進」について、御説明申し上げます。

丸の一つ目 地域活性化スポーツ推進事業の、「2 スポーツ合宿等の誘致支援」についてですが、今年度は、オンライン合宿相談窓口を設置したほか、スポーツ合宿の更なる実現に向け、県内市町村と首都圏等のスポーツチーム、あるいは旅行代理店とのマッチングについて、対面により実施します。時期については、令和7年12月頃を予定しております。

「4 トップ・プロスポーツチームと連携・協働した地域活性化」についてですが、昨年度に引き続き、いわてグルージャ盛岡、岩手ビッグブルズ、釜石シーウェイブスと連携をしながら、冠ゲームの開催やスポーツ教室、健康づくり教室といった取組を実施しています。

また、丸の二つ目「被災地スポーツ交流推進事業」についてですが、令和7年度は世界陸上・デフリンピックの開催のため休止していますが、令和4年度から実施している事業で、東京都、岩手県、宮城県及び福島県の子どもたちを、被災3県がそれぞれの県に招待し、子どもたちとスポーツを通じた交流を実施することにより、東日本大震災以降、スポーツを通じて築いてきた絆をレガシーとして継承するとともに、岩手県の魅力や東日本大震災からの復興の姿を伝えるもので、令和8年度再開することとしています。なお、世界陸上・デフリンピックへの対応については、(2)の報告で御説明いたします。

(谷藤会長)

17ページ、18ページについて、質問がありましたらお願いいたします。

リモート参加の木下さんも何かありましたらお願いします。

何か質問等ありましたら、挙手をして、発言いただきたいと思いますのでお願いします。

他に皆さんの方からありましたら、お願いいたします。

(内城委員)

計画の中にあるものではないと思うのですが、トップ・プロスポーツチームとの協働というか、応援する一つの取組として提案です。いわてグルージャ盛岡のホームゲームをする盛岡南公園球技場と、いわて盛岡ボールパークの最寄り駅が岩手飯岡駅ですが、駅から球場に向かう道が非常に寂しいなと思っております。試合を行うトップ・プロスポーツチームを応援できるような形、盛り上がるような形で整備あるいはお店があれば、試合を見に来る人たちも、スポーツだけを目的に観戦に来る人ももちろんいると思うのですが、波及効果というか、食事やショッピング、掲示しているものを見るなど、何か盛り上がりがあると、そこに向かう道筋がもう少し太くなるのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

(田内総括課長)

御意見ありがとうございます。

一昨日、楽天と巨人のファーム戦がありまして、私も行ったのですが、野球場から駅まで歩きました。確かに何も無いような道路でございます。おそらく、道路自体は盛岡市の市道かと思いますが、球場の整備に合わせて歩道の整備などを行ったのかと思います。その辺りは都市計画など色々な絡みがあり、県だけではなく盛岡市とも相談していかなくてはならないことだと思いますので、今の話を市と共有し、中長期的な視点を持って市と意見交換を行っていきたいと思います。

(柿崎委員)

2番目の合宿等の誘致支援ということで、多くの学校、大学等が合宿に来ていると思いますが、どのぐらいの規模で、どのように来られているか把握されていますでしょうか。把握されているようでしたら、教えてください。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

少々お待ちください。

(谷藤会長)

私もこの前、陸前高田市へ行きましたが、体育館に大学がずらりと並んでいまして、スポーツはもちろんですが、応援団や吹奏楽も来ていました。市町村の方も補助しているそうですね。

(柿崎委員)

はい。皆さん一生懸命やられているようです。

(田内総括課長)

お待たせして申し訳ございません。昨年度、県内で合宿を行った県外のチームですが、構成団体に調査を行ったところ、延べ人数で7,695人となっております。大学のクラブ活動を始め、社会人や高校生も含めてそのぐらいの規模ということになります。

ちなみに、県では毎年首都圏で合宿相談会を実施していますが、昨年度は2回東京で開催しまして、全部で17団体が相談会へお見えになりました。

(柿崎委員)

宿泊施設も含めて、多くの方に岩手をPRしてもらって、来ていただければと思います。先程お話があったように応援団や他のスポーツではないところも来ていただければと思います。

特に昨日まで岩手で開催しておりました、サッカー大学総理大臣杯では、多くのチームが岩手に宿泊し、県内の施設で練習していただいて、そこにスポ少の子どもたちが見学に行つてとか、指導者が戦いを見ながら研修するとか、サッカーですが、Jのスカウトマンと交流ができるなど、非常に多くのものを落としていってくれる、これは何かやっていかないとダメなことなのかなと思います。

特に先程出ていた暑熱対策ということで、ここは売り込みを頑張っていただければと思います。

(谷藤会長)

他に皆さんからありましたら、お願いいたします。

それでは、最後ですので、第2期岩手県スポーツ推進計画の取組状況全体を通して、何かありましたらお願いいたします。

(2) 報告

(谷藤会長)

それでは、報告の方に入らせていただきます。

「ア 第79回国民スポーツ大会の岩手県選手団の派遣状況」について、事務局から説明をお願いいたします。

(千葉競技スポーツ担当課長)

「第79回国民スポーツ大会の岩手県選手団の派遣状況」について、御報告申し上げます。

資料No. 2を御覧ください。第79回国民スポーツ大会ですが、令和7年1月にスケート競技会、アイスホッケー競技会、2月にスキー競技会と、冬季大会の方は実施済みです。本大会ですが、滋賀県で開催される予定となっており、会期前は9月6日(土)から開催しております。

本大会は9月28日(日)に総合開会式を実施し、その後、各競技が実施される予定です。参加数は9月8日確定予定とありますが、本日午後から県スポ協の方で選手強化委員会が開催されます。そこで、選手団が承認され、参加数が確定される予定となっております。

「2 有望選手・団体等」についてですが、青年選手は過去の国スポの実績、少年選手は今年度のインターハイの実績等を上げまして、こちらの選手たちの活躍が期待されているところです。

「3 天皇杯・皇后杯の成績の推移」ということで、昨年度、順位的には過去にない順位となっております。今年度は巻き返しを図っていきたいところです。

4は冬季国スポの結果、現状です。

(谷藤会長)

皆さんの方から質問がありましたら、お願いいたします。

よろしいですか。それでは、「イ 第24回全国障害者スポーツ大会の岩手県選手団の派遣状況」について、事務局から説明をお願いいたします。

(千葉競技スポーツ担当課長)

続きまして、「第24回全国障害者スポーツ大会の岩手県選手団の派遣状況」について、御報告申し上げます。資料No. 3を御覧ください。

今年度の全国障害者スポーツ大会は、同じく、滋賀県を会場に開催される予定です。会期は10月25日(土)から27日(月)までの3日間となっています。

選手団の参加数ですが、107名ということで決定しているところです。個人競技につきましては、資料に記載の通り28名の選出を決定しています。団体競技につきましては、フットソフトボール、バレーボール、ソフトボールの3競技が北海道東北ブロック予選会を通過しまして、この3競技が団体競技として出場する予定です。

4は過去の大会成績です。

(谷藤会長)

皆さんの方から質問がありましたら、お願いいたします。

よろしいですか。それでは、「ウ 第81回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」について、事務局から説明をお願いいたします。

(及川特命課長)

スポーツ振興課特命課長の及川と申します。「第81回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」について御説明いたします。着座にて失礼いたします。

資料No. 4を御覧願います。「1 スキー競技会の概要」について説明いたします。

大会の開催時期は、令和9年2月18日(木)から21日(日)まで、大会名称は記載の通りです。

大会愛称は、「いわて八幡平雪ゆめ国スポ」、大会スローガンは「白銀の 世界で輝く 夢・絆」です。これは、今年8月20日に開催された日本スポーツ協会国民スポーツ大会委員会において、正式に決定されたところです。

会期は4日間で、初日に開始式を行います。会場、実施競技、参加資格は表に記載の通りです。参加人数は、選手・監督など、約1,800人を予定しています。

次に、その下の表の開催状況ですが、令和9年は本大会が宮崎県、スピードスケートのうち、ショートトラック以外は岐阜県、ショートトラック、フィギュアスケートは山梨県、アイスホッケーは神奈川県で開催が予定されています。

「2 本県の開催実績・予定」ですが、平成17年以降では本県のスキー競技会は平成17年、28年、令和5年に開催しており、次の大会は4年ぶりの開催となります。

次に「3 今後の主なスケジュール」についてですが、今年9月18日に、先般正式決定した大会愛称及びスローガンの表彰式、来年の2月頃には1年前カウントダウンボードセレモニーを開催し、大

会の機運醸成、周知に努めてまいります。

令和8年5月には、岩手県実行委員会第3回の開催を予定しておりまして、委員会で関係者と大会運営に係る調整を図ることとしており、令和9年2月の競技会開催に向け、準備を進めてまいります。

4は参考として、いわて八幡平白銀国体の大会概要を付けております。

(谷藤会長)

愛称、スローガンも決まったということですが、皆さんの方から質問がありましたら、お願いいたします。

では、次に「エ 中学校運動部活動の地域移行に係る今年度の取組」について、事務局から説明をお願いいたします。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

資料No. 5を御覧ください。

先程、議題1でも御説明いたしましたが、「岩手県における地域クラブ活動の在り方に関する協議会」を今年度は7月に開催しております。

「1 スポーツ庁委託事業『地域スポーツ活動体制整備事業』」については、令和7年度は7市町で実施する予定としております。

「2 地域スポーツ活動体制整備事業におけるアドバイザー」は、今年度新規で取り組んでいるところですが、地域移行を着実に推進するため、市町村への助言や指導等を行うアドバイザーを設置したものです。

「3 事例発表会の開催」については、市町村等において、部活動の地域移行等に取り組んでいる方々や、これから取り組もうとしている方々の参考となるよう、他県の先進事例を紹介する事例発表会を開催する予定としているものです。

「4 相談会の開催」については、広域振興局ごとに地域移行に向けた助言や先進事例の紹介等を行う相談会を開催予定としているものです。

5、6は新規事業であり、教育委員会で主に取り組む内容となっておりますが、「5 一関第一高等学校附属中学校における地域部活動への移行」について、学校部活動の地域連携、地域移行に関する施策を推進する上で、基礎資料とすることを目的とし、在籍する生徒、保護者及び教職員の学校部活動の地域クラブ活動への移行に関する意識調査を実施するものです。

「6 学校部活動の地域クラブ活動への移行に係る意識調査」についてですが、地域連携、地域移行の認知度、希望、期待及び不安等について把握することを目的とし、県内市町村の小学校5年生、6年生、中学生、保護者、学校職員等に対する意識調査を実施するものです。

(谷藤会長)

皆さんの方から質問ありましたら、お願いいたします。

(津志田委員)

2の「地域スポーツ活動体制整備事業におけるアドバイザー」について、今年度新規で地域移行を着実に推進するためにアドバイザーを設置ということでしたが、現段階での市町村の取組状況と聞いている課題を教えてください。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

まず、アドバイザーですが、岩手大学人文社会科学部の講師である嘉門先生へ委嘱しています。活動計画としては、年3回、全市町村を訪問することとしており、先週末までに33市町村全て、第1回目の訪問を終えています。訪問した中で課題として、指導者の確保、指導者謝金の確保、生徒の移動手段の確保といった点が挙げられました。

(津志田委員)

今年度、中体連の主催大会に参加するために団体から提出された「中体連主催大会に参加するための登録申請書」を見ておりますと、平日の活動時間に課題があるように見受けられました。18時から21時まで活動している地域クラブ活動団体は96.5%であり、学校部活動の時間帯と比較すると、夜間の活動であるため、生徒の健康面や学習面に影響があると感じています。

また、これまで競技団体の大会に参加していたことに加え、中体連主催大会に参加することで、年間を通しての大会参加数が増えています。生徒の教育上の意義や生徒や保護者の負担が過度とならないよう参加する大会の精査も必要だと思いますので、そのようなことも踏まえて、聞き取りを行っていただきたいと思います。

(谷藤会長)

要望ということですね。活動時間については、市町村が指導していくという理解でよろしいですか。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

地域移行については各市町村が進めることになっていますので、その中でこういった指導を行っていくかということになりますが、こちらについては、2回目の市町村訪問において、問題意識をもって対応していきたいと思います。

(内城委員)

私も指導者謝金や移動費用については、地域の中で課題があると思っています。

もう1点、中体連の大会に参加する基準があると思いますが、子どもの数が少なくなっていく時に、広域連携を組まないと出場できない、あるいは開催できない大会が出てくるのではないかと考えています。

岩手県では、子どもたちがやりたい種目が選択できるような、自由な政策が必要になってくる時期が間もなく迫っていると思います。中体連だと、町、村単位が行われていると思いますが、町村を横断しながら出場したいと考えている子どもたちに対して、上限やどのようなやり方があるか教えてください。

(谷藤委員)

今の制度について、中体連の津志田委員から御説明をお願いいたします。

(津志田委員)

部活動の地域展開と大会参加が同じように考えられがちですが、地域展開は市町村が進めていく中で、中体連主催大会の在り方については、中体連が検討することとなります。

中体連の会議の中でも、市町村内や同一地区中体連内だけではチームが組めなくなる状況を踏まえ、各地区において合同チーム規定を改定したり、昨年度策定した「拠点校部活動・合同部活動の大会参加規程」を見直し、改定したりする予定としております。

市町村が行う地域展開の状況に応じて、子どもたちの大会参加を保障するため、これからも皆さんの意見を伺いながら、柔軟に中体連主催大会への大会参加のあり方について検討していきたいと思えます。

(谷藤委員)

現段階では、地域クラブとして市町村にまたがって、中体連の大会に参加することはできないということでしょうか。

(津志田委員)

学校部活動と同じ同一地区です。

(内城委員)

私たち親世代では中体連をよりどころにするのが強いと思っております。

スポーツに視野が開けた保護者の皆さんは、柔軟で割り切った考えをされているところもあるように思いますが、やはり地方で子どもたちの部活動を支えてほしいと考えている保護者の方々がまだ多いように思えます。そこを柔軟に対応できるような形、特に市町村の学校を越えた枠組みの中で大会に出られるような形が、岩手県内でモデル化されればよいと思えます。

おそらく、全国で基準を設けていて難しいとは思いますが、保護者が選ぶのか、市町村が選ぶのかは分かりませんが、今の状況だと子どもたちの行き場がなくなっていく可能性が高いと思えます。この流れが、思っていた以上に速いのではないかと思っていて、私が住んでいる市町村の部活動地域展開の話し合いに参加した際、保護者の方が、子どもたちの活動を柔軟にしていきたいと思う一方で、中体連の枠組みが気になるという話をされていました。子どもたちが考えていければ良いのですが、それは大人の役割かと思えます。

もう1点として、私は町の教育委員も務めているのですが、中学校3年生の全国テストの調査結果について、点数が非常に低くなっているという現状が気になっています。部活動に熱心に取り組む姿も望ましいと思う一方で、全国的な流れになると、中学2年生から3年生が学業に力を入れていく年代になると思えます。そういった時に、地域格差や教育格差につながらないよう、スポーツ分野でも頭に入れておきたいと思っているところです。

要望ではなく、情報提供ということで組み込んでいただければと思えます。

(谷藤会長)

情報提供ということですので、各担当で参考にしていただければと思います。

津志田委員から何かありましたら、お願いいたします。

(津志田委員)

一つ皆で共有したいと思いますが、これから学校部活動から地域クラブ活動に移行していく際には、中体連の大会は学校部活動の大会を運営していますので、特例で参加を認めている地域クラブ活動が増加すると学校部活動数が減少し、大会運営ができなくなる可能性もあります。今後は、「学校部活動の大会である中体連主催大会参加」から競技団体が開催する大会に参加する状況になっていくと思います。

(谷藤委員)

他に皆さんからありましたらお願いいたします。

(熊谷委員)

6の意識調査の対象としている県内市町村の小学校5、6年生と保護者の規模を教えてください。また、5について、対象が一関第一高等学校附属中学校ということで、中高一貫校という特殊な学校ですが、ここを選んだ理由があれば教えてください。

(中村保健体育課総括課長)

6の意識調査についてですが、基本的には任意です。

まず初めに、全ての33市町村教育委員会に意識調査を行うかどうか選択してもらい、調査を行っても良いという回答を得られた市町村の小学校、中学校に対して調査を実施します。ただし、学校の判断で実施を見送りたいという話があれば、無理に調査は行いません。そのため、規模感とすれば、33市町村ただし、任意調査ということになります。

5の対象を一関第一高等学校附属中学校としている理由ですが、こちらは県立学校であり、市ではなく、県が主導で地域移行・地域展開を進める必要があるため、選ぶというよりは、県立であるため県が主体的に働きかけているということです。

(谷藤会長)

よろしいでしょうか。他にありましたら、お願いいたします。

では、「5 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック」について、事務局から説明をお願いいたします。

(阿部生涯スポーツ担当課長)

資料No.6を御覧ください。「東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック」について、御説明いたします。

世界陸上については、9月13日（土）から21日（日）まで、デフリンピックは11月15日（土）から26日（水）までとなっています。

「4 本県の対応について」ですが、「世界陸上・デフリンピック」を通じた被災地連携として、東京都と調整を進めながら事業の協力を行うこととしています。先程、17ページで申し上げた通り、被災地支援事業が令和7年度は中止ということになっていますが、当該事業の中止を受けて、世界陸上・デフリンピックの招待を受けたというところがあります。

世界陸上の「① 子供の競技観戦」ですが、被災地の子どもたちに観戦機会を提供するものであり、小学生から高校生までの児童、生徒及び引率者が対象となっており、本県からはいわてスーパーキッズU12小学6年生の児童26名、引率者5名が参加する予定です。

デフリンピックについては、現在、盛岡聴覚支援学校生徒の参加を考えています。合わせて、被災地支援ブースを設置する予定です。

「5 本県ゆかりの日本代表選手内定状況」ですが、世界陸上は2名、デフリンピックは6名が内定しています。

（谷藤委員）

ただいまの説明に対して、質問がありましたらお願いいたします。

（熊谷委員）

世界陸上に本県選手が2名、デフリンピックに多数の選手が出場されるということは、大変嬉しく思います。ちなみに、東京都と連携、支援を受けながら実施する事業は前からあったことですが、世界陸上にスーパーキッズの子どもたちが参加するというのは、東京都から指名があったのか、岩手県独自のものなのか、あるいは陸上を愛する子どもたちという考え方の中で、スーパーキッズとなったのか、その辺りの経緯があれば教えてください。

（阿部生涯スポーツ担当課長）

世界陸上については、小学生から高校生を対象に招待を受けたところですが、人選に当たり、地域バランスを見た時にスーパーキッズであれば、まんべんなく揃っているだろうということで、スーパーキッズU12を対象としました。

（熊谷委員）

分かりました。ちなみに、昨年度、スーパーキッズは独自の事業で東京等の大会等に行っていたと思いますが、それとは別と捉えてよろしいですか。

（千葉競技スポーツ担当課長）

スーパーキッズですが、昨年度からNTC研修ということで、ナショナルトレーニングセンターへ研修に行く事業を実施しています。今回の世界陸上への招待とは別です。

(熊谷委員)

N T C研修も小学校6年生が対象でしたか。

(千葉競技スポーツ担当課長)

確認しますので、少々お待ちください。

(谷藤会長)

確認中に、他に質問がありましたらお願いいたします。

松村委員は何かありますか。感想でも結構です。特にありませんか。

木下委員は何かありますか。全体を通してでも結構です。特にありませんか。

(千葉競技スポーツ担当課長)

N T C研修ですが、U15の中学1年生を対象として実施しています。

(谷藤会長)

他に皆さんからありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、以上をもって報告を終了させていただきます。円滑な進行に御協力をいただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

4 その他

(田内総括課長)

谷藤会長、ありがとうございました。それでは、次に「4 その他」でございますが、委員の皆様から何かございますか。

(熊谷委員)

今回は、県営スポーツ施設の移管に関して進行状況の報告がありませんでしたが、あまり大きな進展がなかったということでしょうか。

(渡辺特命課長)

スポーツ振興課特命課長の渡辺と申します。県営スポーツ施設については、昨年度の審議会であり方に関する報告書を報告させていただきましたが、現在、課内で検討を進めているところです。

また、スポーツ医・科学センターについては、令和7年3月に第1回の有識者懇談会を実施しており、今後、2回目の有識者懇談会を予定しています。

(田内課長)

他によろしいでしょうか。

長時間にわたる御審議ありがとうございました。次回の審議会は、令和8年2月の開催を予定しております。開催については、改めて御案内を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の審議会はこれもちまして閉会いたします。皆さんどうもありがとうございました。